

白河商工会議所専務理事  
前白河青年会議所理事長  
平公共職業安定所職業紹介課長  
大黒屋KKK人事課長  
いわきVYS会長  
さざなみコーラス  
元県教委社会教育課長

小松 久保  
横村 昭司  
平野 正夫  
小林 峯一  
佐藤 充秀  
細田 年一  
中島 茂

② 助言者

・県教育庁社会教育課員、県南・いわき教育事務所社会教育主事、白河市・いわき市教育委員会職員

(4) 参加者

昭和42・43年度に中学校・高等学校卒業者でただちに就職した中小企業勤労青年男女で、いわき会場は男子18名、女子13名、白河会場は男子17名、女子14名であった。

(5) 内容

① 講義

- ア. 青年と人生
- イ. 団体活動
- ウ. 職場における人間関係
- エ. 社会と職業

② グループ活動

- ア. スポーツ
- イ. わたくしの主張発表会
- ウ. 話し合い(わたくしの職場紹介)
- エ. フォークダンス
- オ. 歌
- カ. ゲーム

(6) 効果

講義や話し合いにより、職業生活観や社会観を相互研修させ、グループ活動により交友を深め、今後の生活に対する明るい希望と自信を与えた。また感想文と事業の内容等をまとめ、冊子として、参加者と雇用主に配布し青少年教育の重要性について共感を得た。共催の市教育委員会も、本会の趣旨と重要性を認識され、各市商工会議所や商店連合会の全面的な協力により、いっそうの成果を上げたことは、地域の勤労青年教育の意識高揚に効果があった。

## 5 福島県青年国内研修

(1) 目的

県下の勤労青年を静岡県および県内の先進地に派遣して生活、教育、文化、産業に関する実地研修を行ない未来の福島をになう豊かな知性とたくましい創造力をもつ建設的青年的育成を目的とする。

(2) 実施要項

- ① 実施主体 福島県教育委員会
- ② 派遣先および人員
  - ア. 県外研修生 静岡県清水市函南町 20名
  - イ. 県内研修生 福島市 10名 郡山市 9名
- ③ 期間

内容	研修別	県外研修		県内研修	
事前研修		7月31日～8月1日	国立磐梯青年の家	7月22日～7月24日	国立磐梯青年の家
現地研修		8月19日～9月2日	清水市函南町	7月25日～8月1日	福島市、郡山市
事後研修		9月3日～9月5日	福島市	8月2日～8月3日	県積慶寮

④ 参加者の資格

下記要件を備えるもので、各教育事務所長ならびに市町村教育委員会教育長から推せんをうけたもの。

- ア. 農業および商工業に従事する18才以上～25才以下の青年であること。
- イ. 青年学級生、青年団員および青年グループ員にして将来郷土にあって研修の成果を積極的に生かし得ると認められるもの。
- ウ. 地域の信望あつく、研究心の強い青年であること。
- エ. 健康状態が良好なもので、特に胸部疾患および伝染性の疾患のないもの。

⑤ 参加者の選考

県教育委員会教育長が教育事務所長ならびに市町村教育委員会教育長を通じ、本人に通知する。

⑥ 研修内容

- ア. 研修の意義と方法
- イ. 地域青年団体活動の役割
- ウ. 福島県青年活動の状況
- エ. 研究主題の指導、研修方法
- オ. 近代的農業経営
- カ. 各研究機関の視察と研修
- キ. 社会教育関係団体との交歓研修
- ク. 団体の活動調査、社会教育関係調査
- ケ. 分宿農家実地研修
- コ. 研修課題の整理と研究発表

(3) 効果

県下で現に青年活動に精進している勤労青年を対象に本県地域振興に積極的に活動する青年活動について理解を深めた。

また県内外の先進地の農業経営について実地研修し近代的産業の振興について学習することができた。

共同宿泊研修をとおして、人間性の陶冶につとめ地域青年リーダーとしての資質の向上をはかった。

## 6 青年団体指導者研修会

(1) 目的

青年団体および青年グループ集団の健全なる育成をはかるため、青年団体の幹部指導者に対し、団体運営活動についての基本的事項について研修し、もって県下青年集団の発展をはかる。

(2) 主催

福島県教育委員会

(3) 期日

昭和44年12月17日(木)～12月19日(金)

(4) 会場

耶麻郡猪苗代町 国立磐梯青年の家

(5) 参加者

- ① 県内市町村における青年会長、副会長、役員
- ② 青年グループ、サークルのリーダー

③ 市町村における青年教育担当者

54名